

倒

錯

童

話

集

1

白雪姫

成人向け



倒

錯

童

話

集

·
一



《もくじ》

ラプンツェル……3

白雪姫……………27

次号予告、謝辞、おくづけ……………巻末





昔むかし：
深い森の奥に高い
塔がそびえ立って
おりました。

ラプンツェル



てっぺんに、
小さな窓がひとつ
ぽっかりと開いて
いるだけでした。



塔には入り口は
おるか、階段
すらなく…

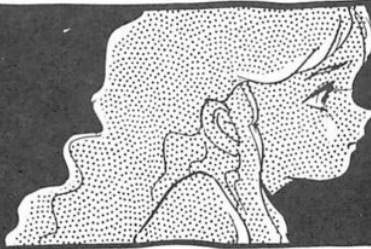
そこには、悪い魔法
使いのおばあさんに
よって、12歳になる
美しい少女が閉じ込
められていました。



少女の名は、
「ラプンツェル」と
いいました。

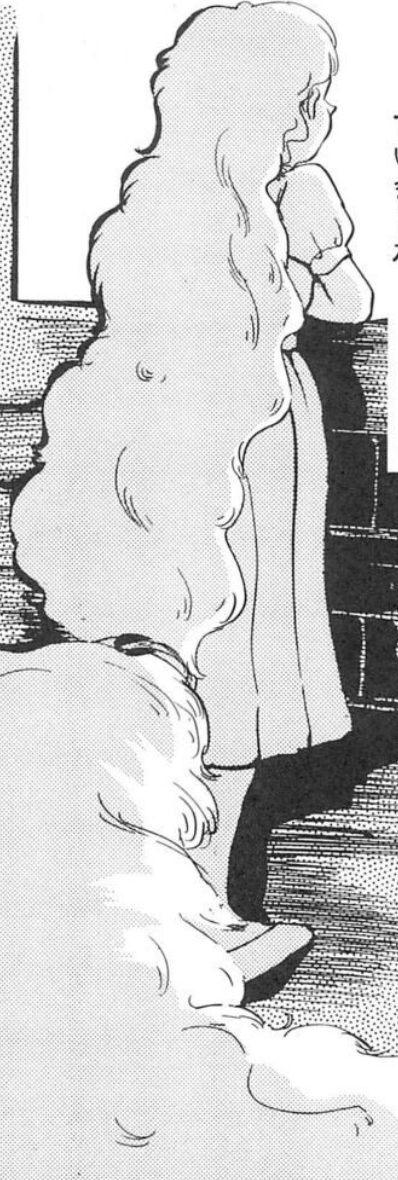


彼女がまだ産
まれる前、彼女
の両親が魔法使
いの庭先で盗み
をはたらいてし
まいました。



その報いとして、
魔法使いは、彼
らにやっと授か
った女の子を、
取り上げてしま
ったのです…

もうひとつ、少女は美し
く長い、黄金色の髪を持っ
ていました。

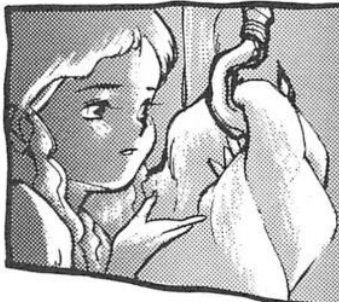


ラプンツェルや
ラプンツェル：
おまえの髪を
下ろしておくれ



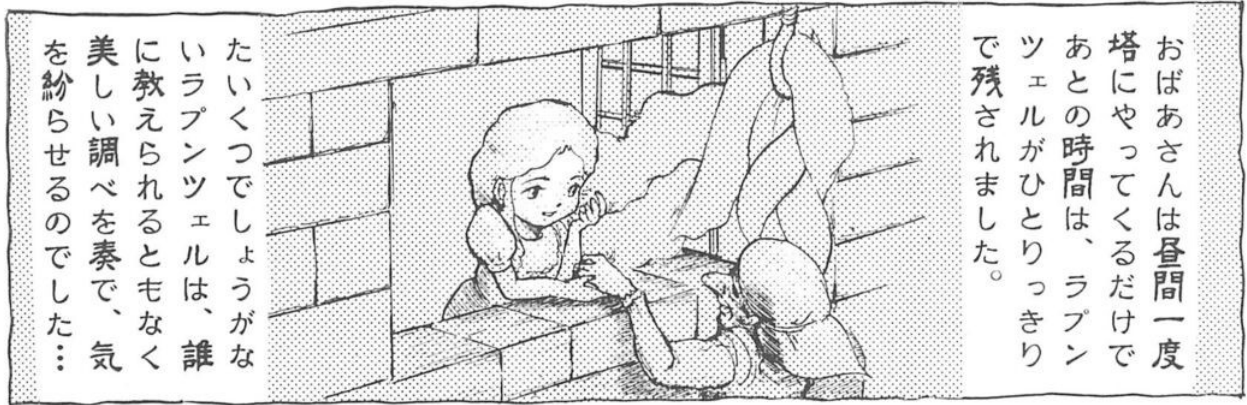
塔のふもとで
魔法使いがこう
呼びかけると…

少女は髪の端を鉤に
引っ掛け、窓から下
へ垂らすのでした。



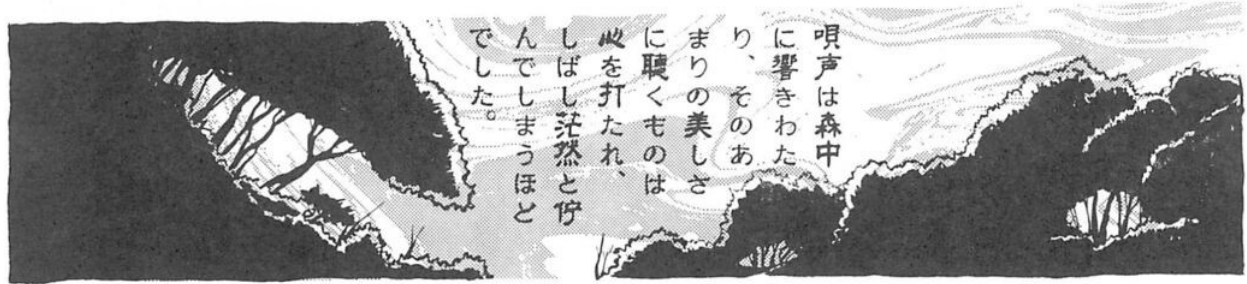
こうして
魔法使いは塔に
登っていたのです。



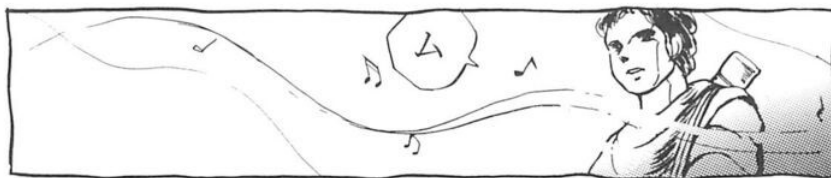


おばあさんは昼間一度
塔にやってくるだけで
あとの時間は、ラプン
ツェルがひとりっきり
で残されました。

たいくつでしょうがな
いラプンツェルは、誰
に教えられるともなく
美しい調べを奏で、気
を紛らせるのです！



唄声は森中
に響きわた
り、そのあ
まりの美しさ
に聴くものは
心を打たれ、
しばし茫然と佇
んでしまうほど
でした。



まただ…
なんといい
美しい唄声
だろう…



馬を降り、眼
をつむって、
声のする方へ
引き寄せられ
るに、身を任
せたのです…

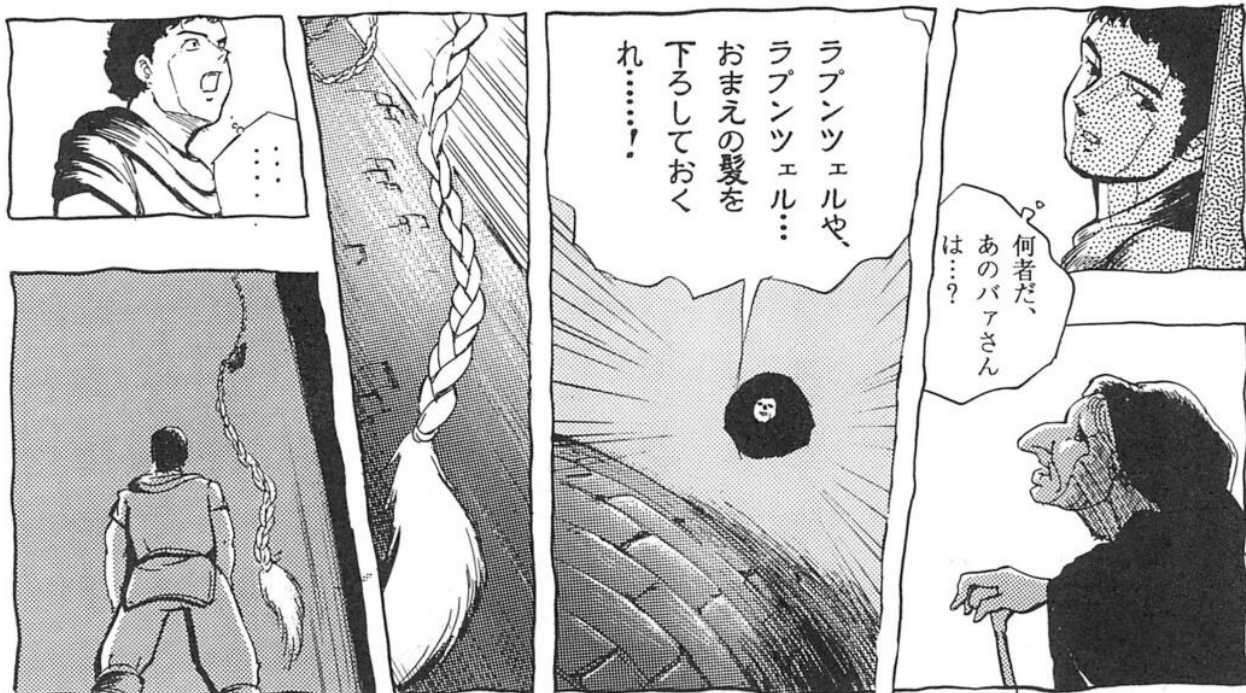


そこで、
王子は一計を
案じました。

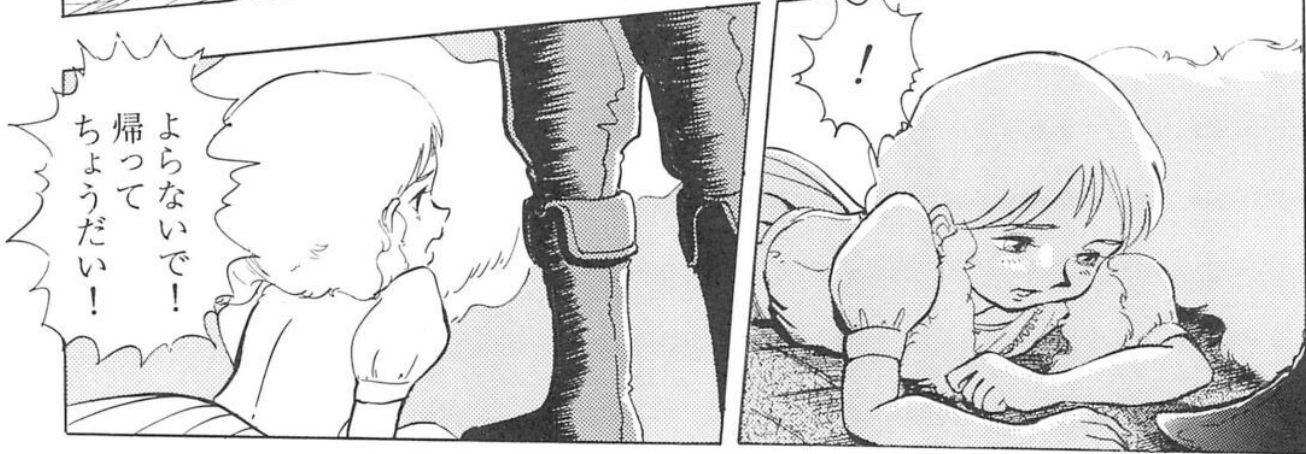


なんとか、
この声の主に
ひとめ会いたい
ものだ…





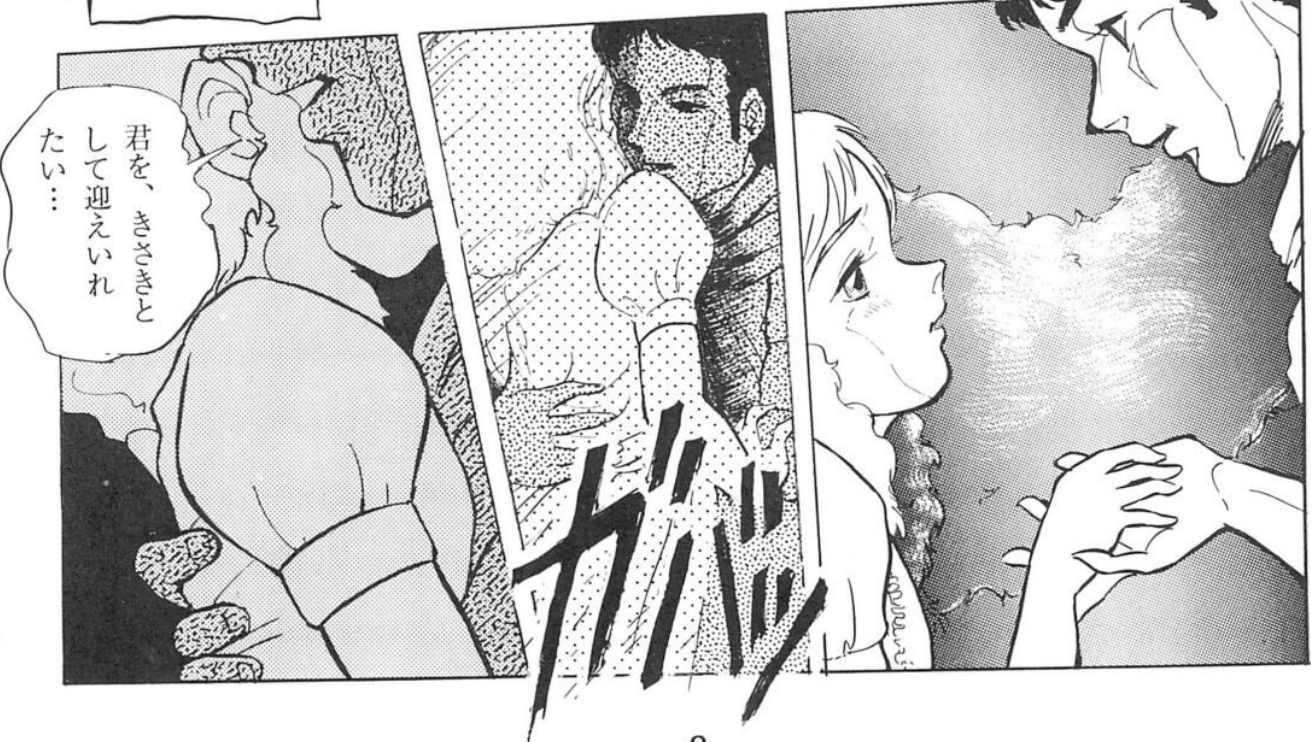




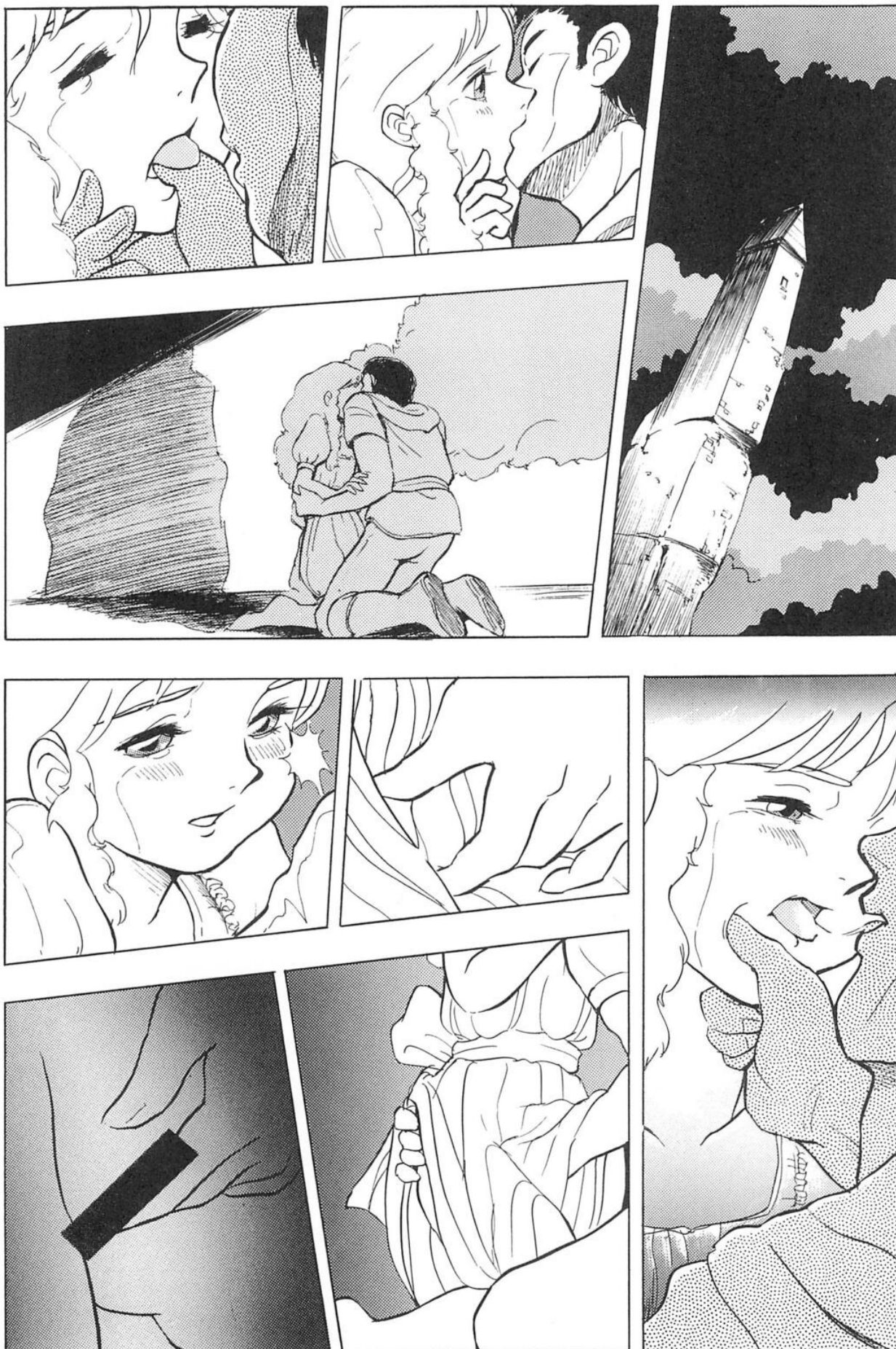
しかし、王子の優しい語りかけに、いつしか心を開いてゆきました。

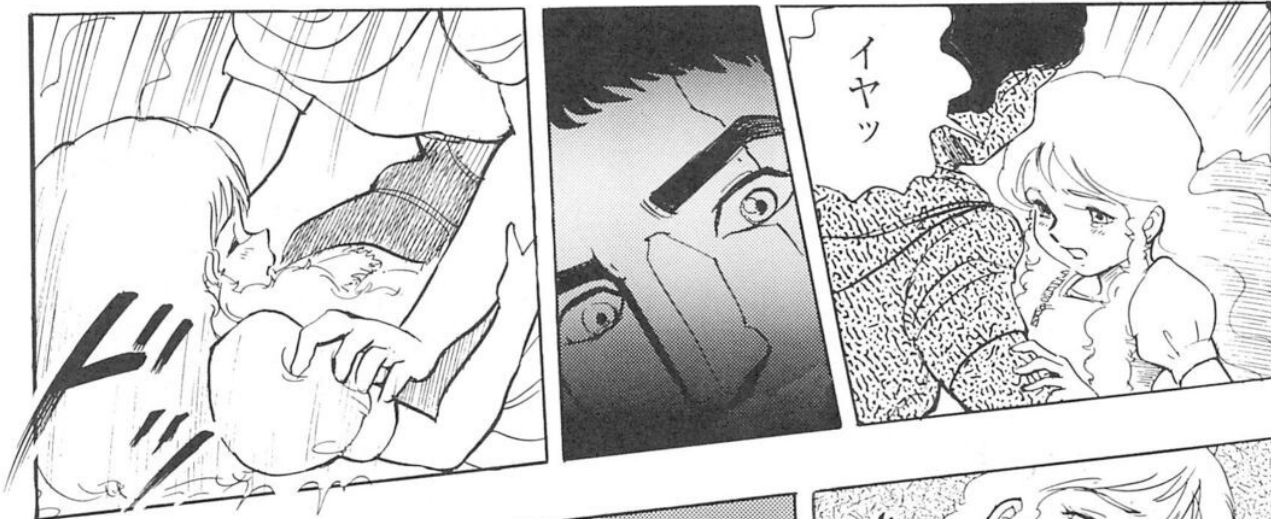


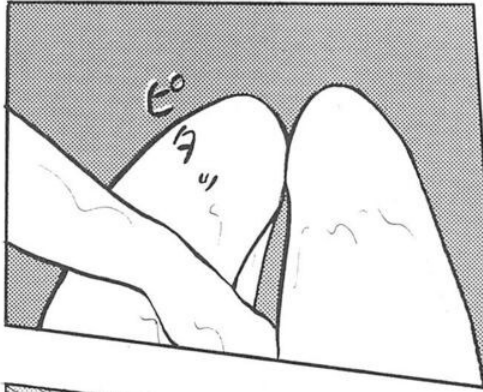
ラプンツェルは男というものを 見るのは初めて でした…。

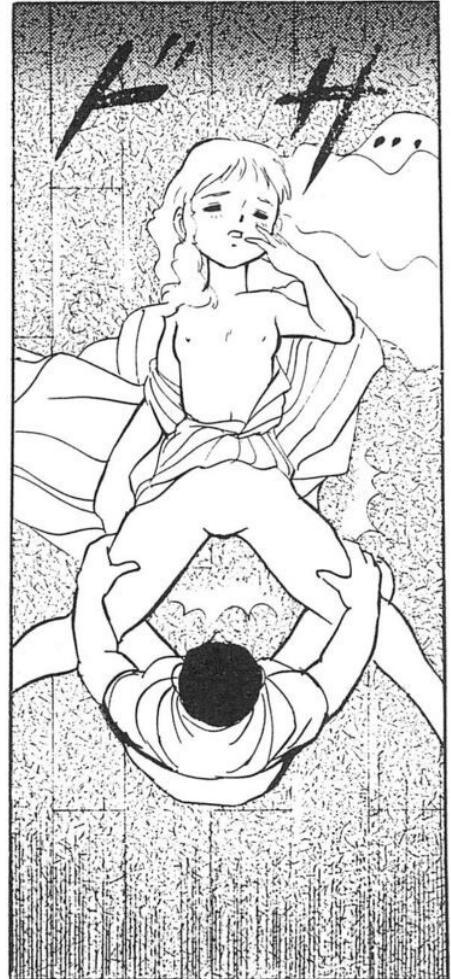
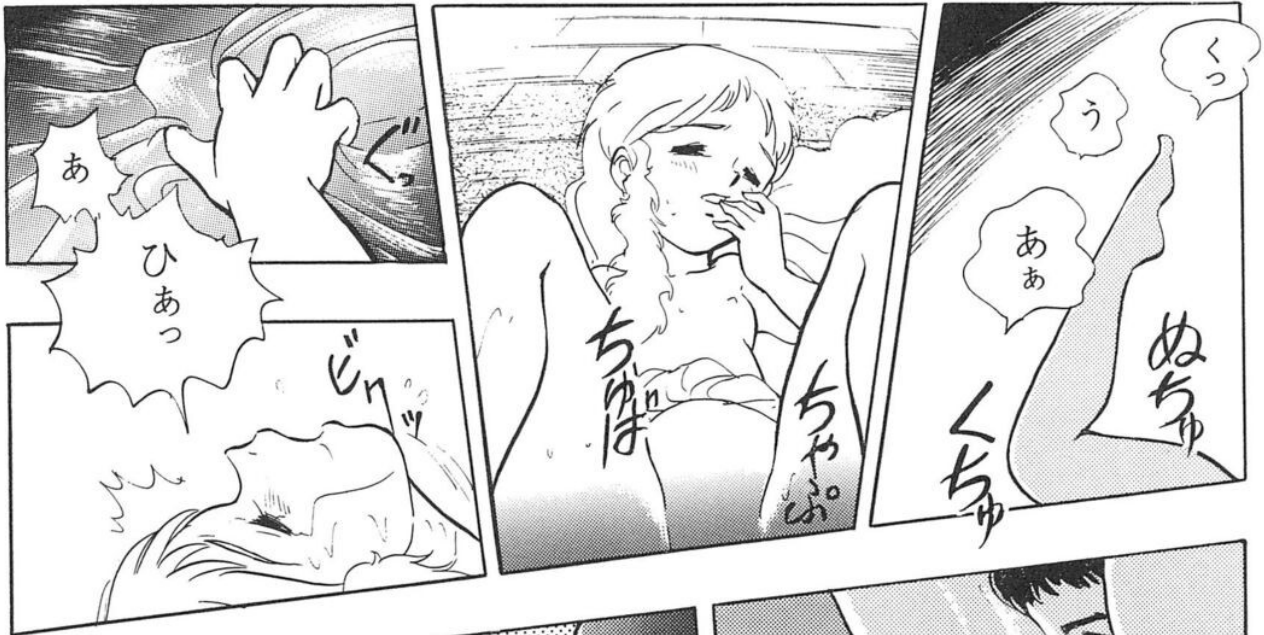


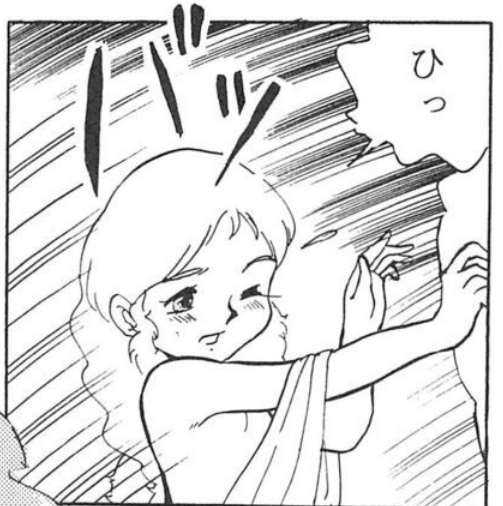
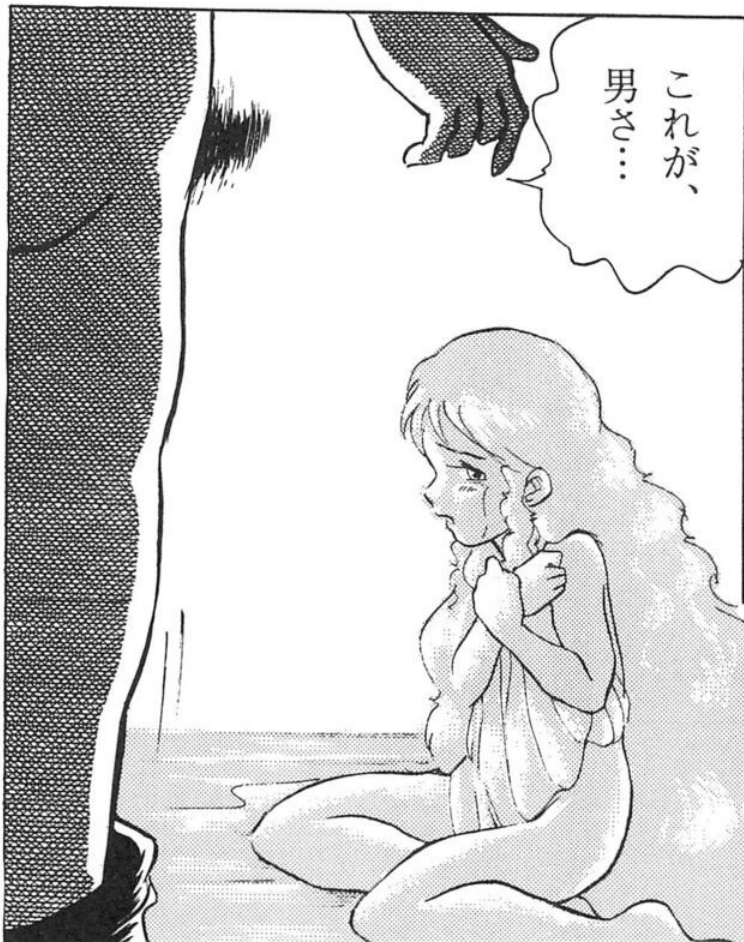
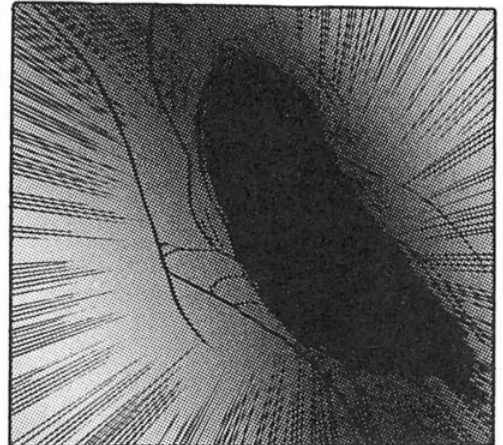
君を、きざきと して迎え入れ たい…

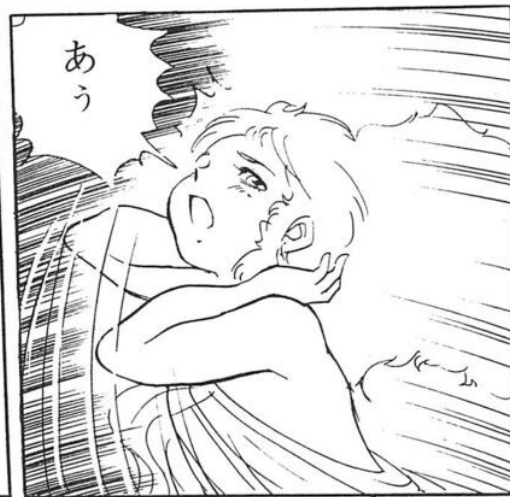
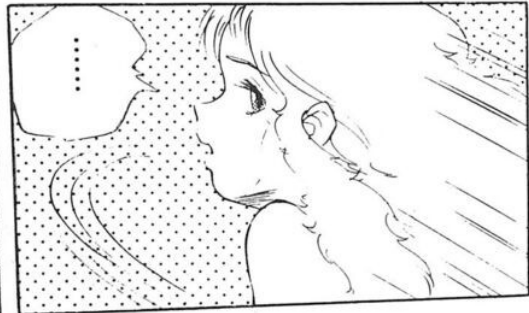


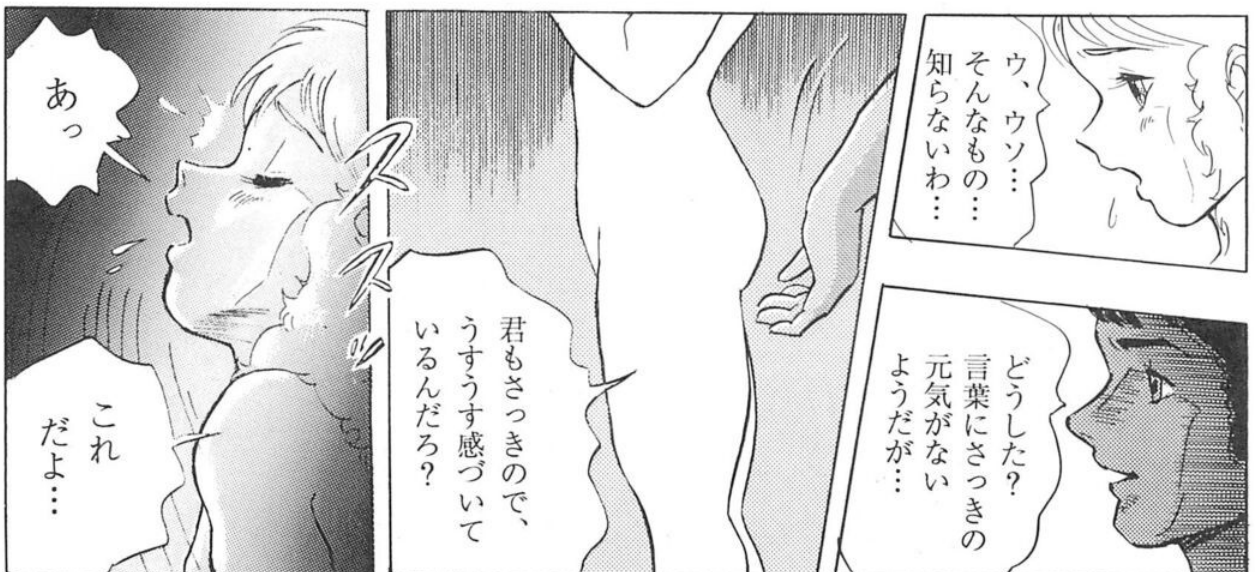
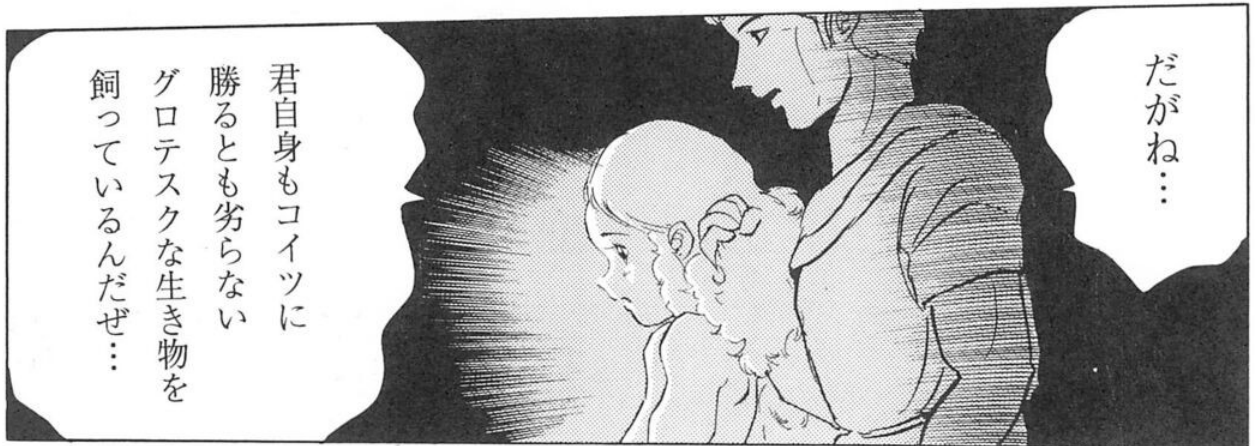


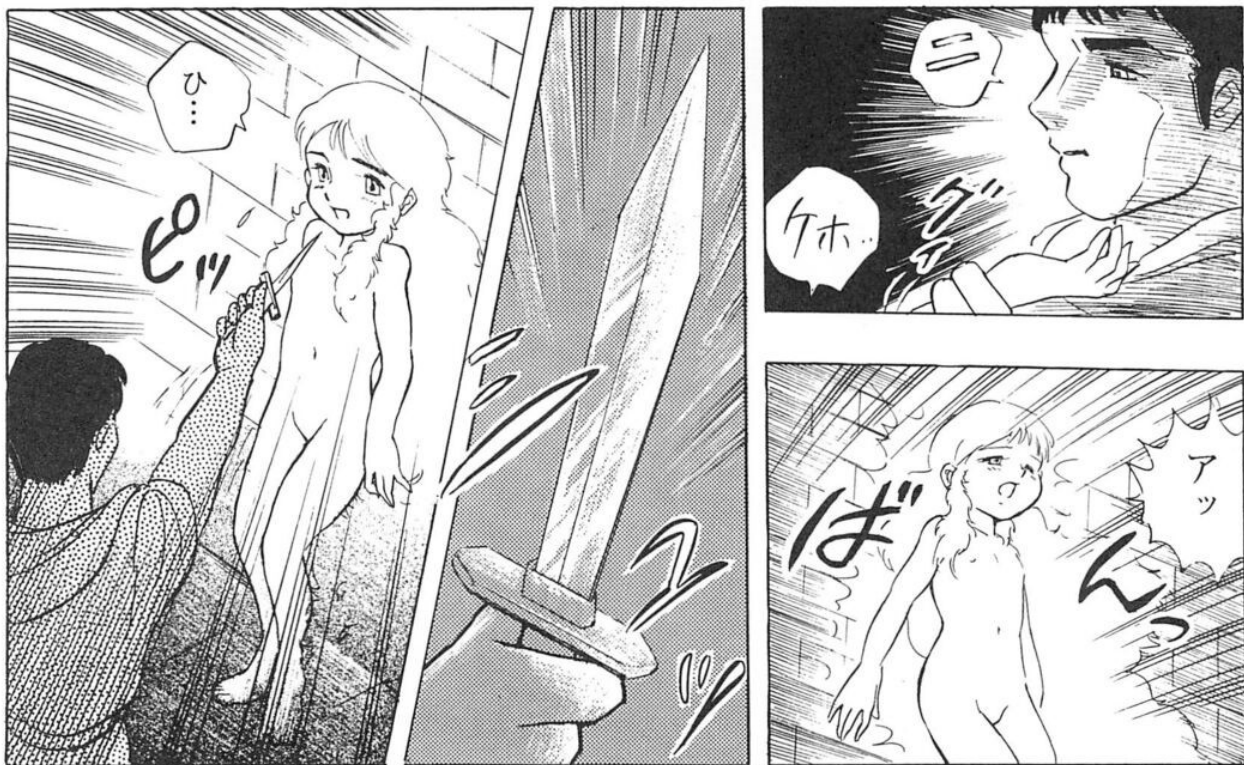


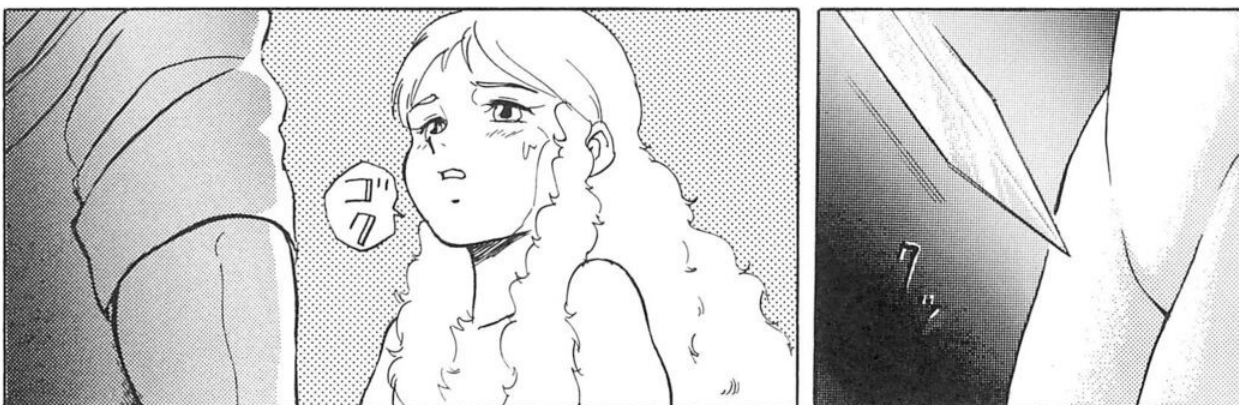
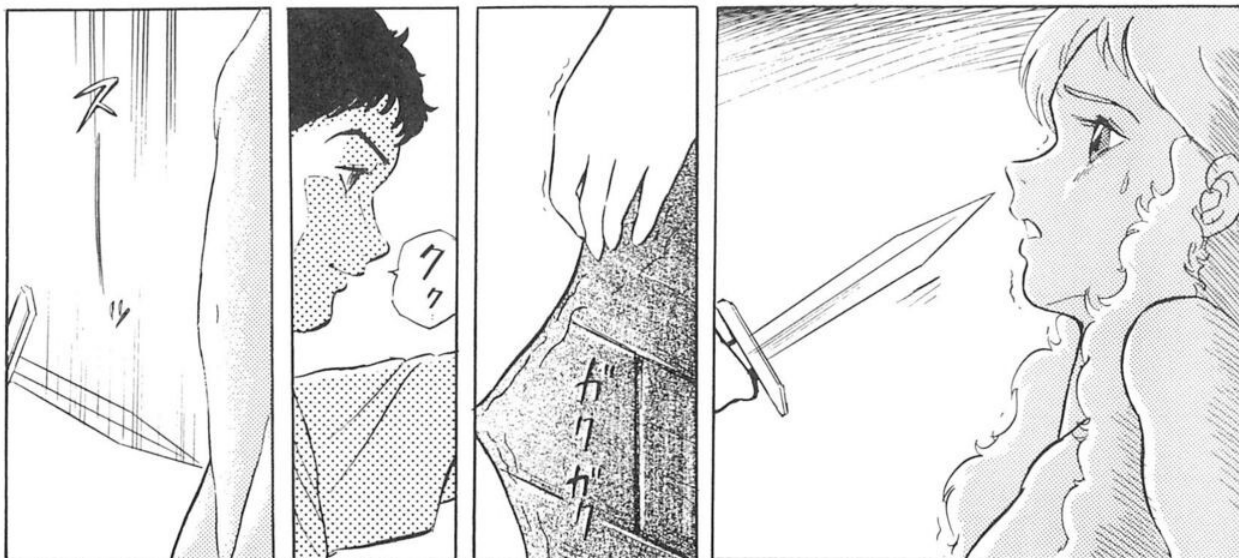


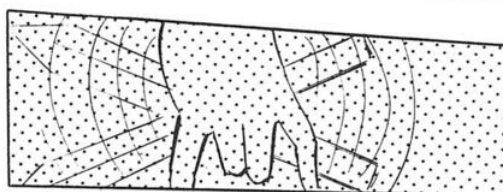


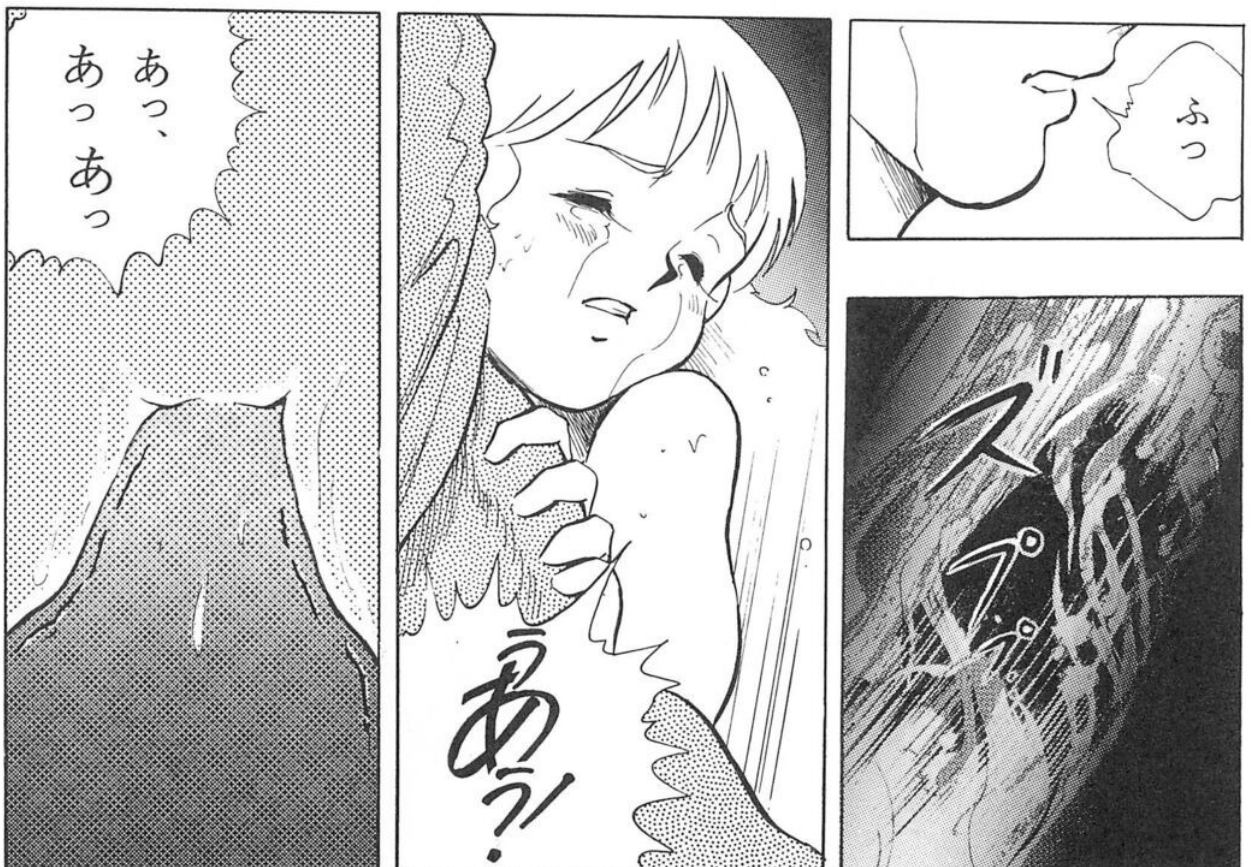
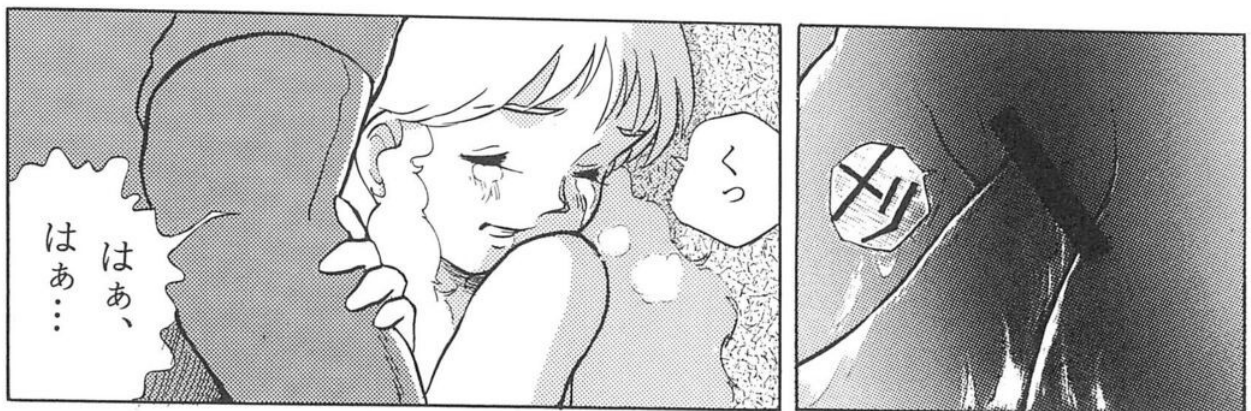
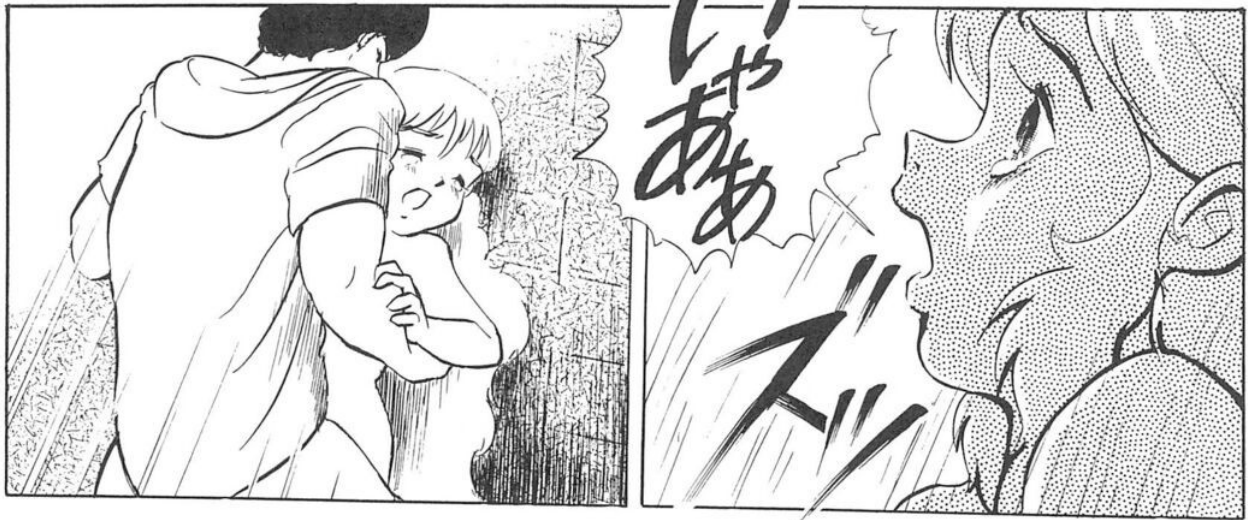


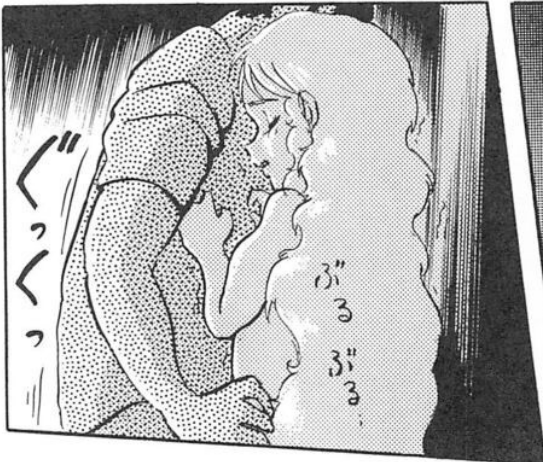
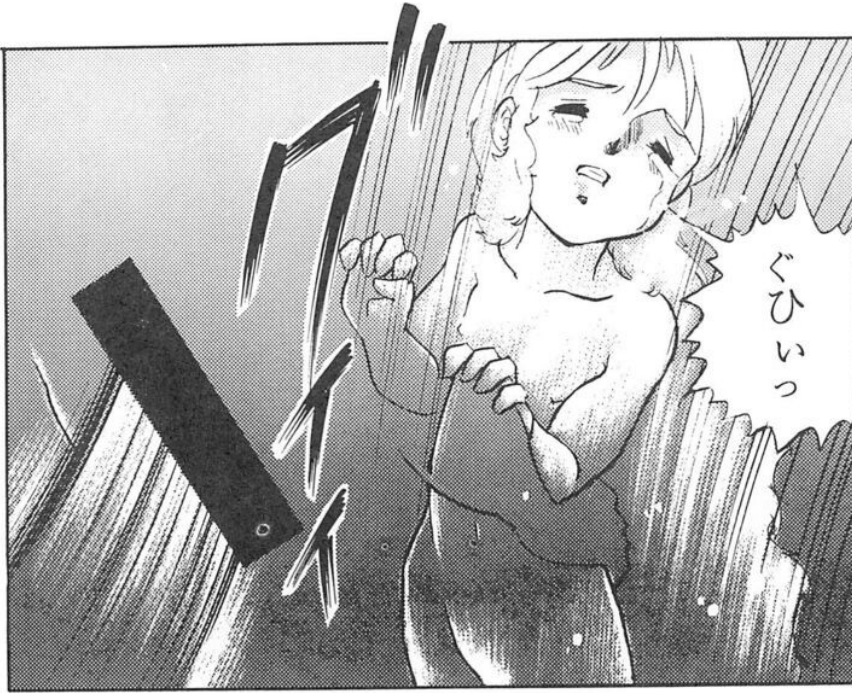




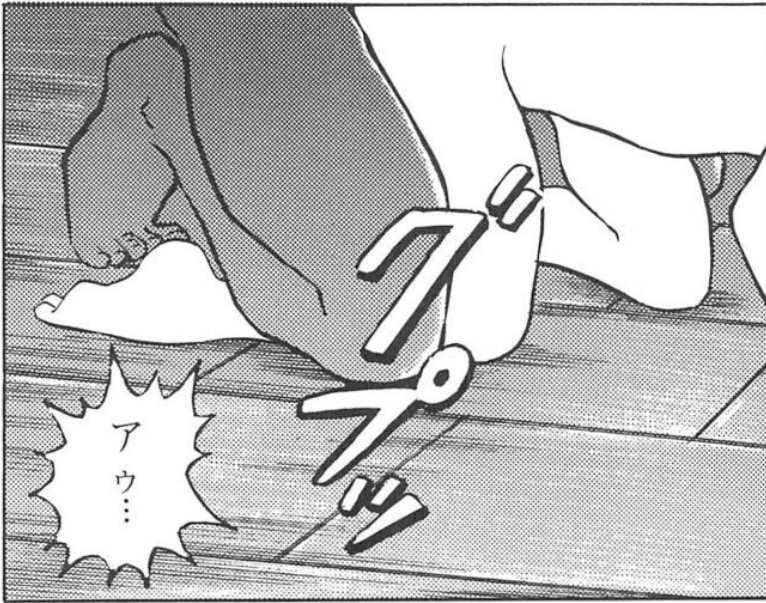




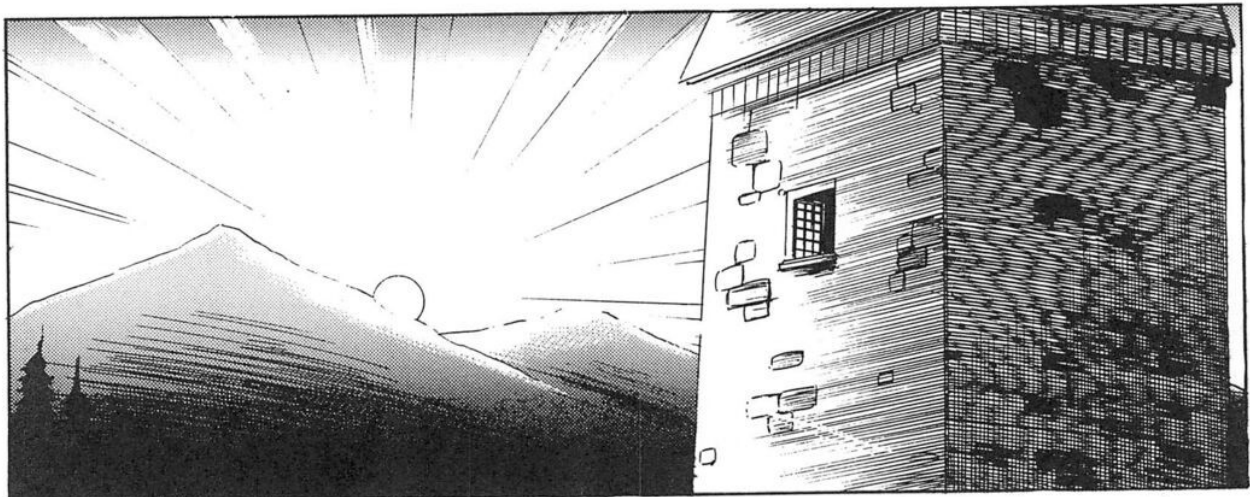
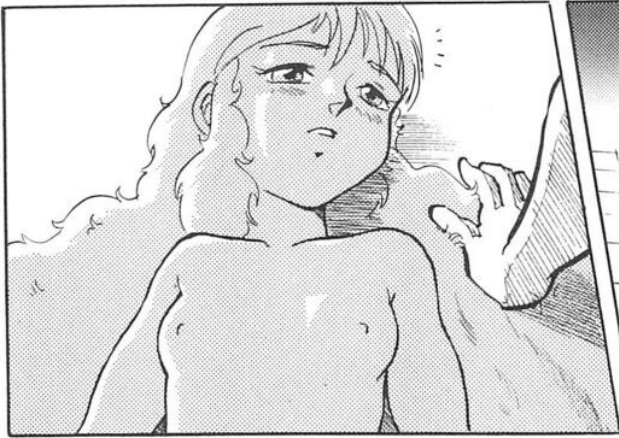








はっはっ
あっはあ





それからという
もの、王子は毒
晩、塔にかよっ
てきました。

そして数カ月の
月日が経ちまし
た。



なんだい…
ラプンツェル？



ねえ、
ゴテル
おばあさん…



ねえ？



…ゴテルおばあ
さんが持ってき
てくれるお洋服
がね…



最近、だんだん
きつくなって、着られ
なくなってきたのは
どうしてかしら…

完

ラプンツェルについて

ラプンツェルはグリム童話集の通しナンバーで12番目に収録されています。

ある老夫婦が、魔法使いのおばあさん（ゴテルばあさん）の野郎（ラプンツェル）を盗み喰いした代償に、彼らにやっと授かった女の赤ちゃんを連れ去られてしまいます。ラプンツェルと名づけられた少女は、12歳になると塔に閉じ込められます。その塔は森の中にそびえたち、階段も入口すらもなく、てっぺんに小さな窓が開いたきりです。魔法使いのおばあさんは、塔への出入りに、少女の美しく長い黄金色の髪を使います。…ラプンツェルは寂しさのあまり独り唄を奏でるのですが、その唄声に王子が聴きほれ、何回か塔に通い詰めた末、塔へ昇る秘密を知ります。塔へ登り、王子は美しい少女に出会い、なかよくなります。…しばらくの間はゴテルばあさんにバレずにいたのですが、あるときラプンツェルはうっかり「ねえ、ゴテルおばあさん、どういうわけなの。おばあさんをひっぱりあげるのは、わかさまよりもよほど重くてよ。わかさまはね、まばたきするまにあたしのそばへ来てしまうのよ」と言ってしまいます。怒った老婆は少女を森に捨て、さらに知らずに塔に登ってきた王子を突き落とし、めくらにしてしまいます。王子は何年かさまよったのち、森のなかで男の子と女の子の双子を育てて暮らしている少女に出会いますが、その少女こそラプンツェルだったのです。少女の涙で王子の目も元通り見えるようになり、二人は旧国へ戻ってしあわせにくらしました…。

以上がおおまかなストーリーですが、このお話しのポイントは、王子との密会で、既にラプンツェルが妊娠していたということでしょう。二人の逢い引きの描写はまったくさっぱりとしていますが、数年後、王子を森の中で再開する場面で、盲目になった王子が聞き覚えのある声をたよりに歩を進めていくと「ラプンツェルが自分の産んだ男の子と女の子のふたごを相手に、ほそほそと暮らしている…」と、はっきりと王子との間にできた子であることが描かれています。

じつは、この「ラプンツェル」は初版でクレームがついて修正がくわえられた作品です。初版では、妊娠し、おなかが大きくなってきたラプンツェルが、「妊娠」という事態に対する知識が皆無であったため、ゴテルばあさんに聞いたのです。「ねえゴテルおばあさん。服がきつくなって着られなくなってしまったのはどうしてかしら？」

このことで、ゴテルばあさんに密会が露呈してしまうのですが、これを読み聞かされている子供たちもラプンツェルと同様、意味がわからない。説明を求められた母親や乳母が困ってしまったらしいのです。クレームを受けたグリム兄弟が修正したのが前述のものであります。どちらが面白いかは一目瞭然ですよ。今回のこのマンガもこのシーンが描きたいためにあえてエロマンガに挑戦したようなものなので…。

ドテロ
DE TERRAULT



白雪姫

昔むかし…冬のさなかの
ことでした。
とある王国のお妃さまが、
窓辺で裁縫をしていました。

しかし、ふと雪の空に見と
れた拍子に、針をゆびに刺
してしまったのです…。

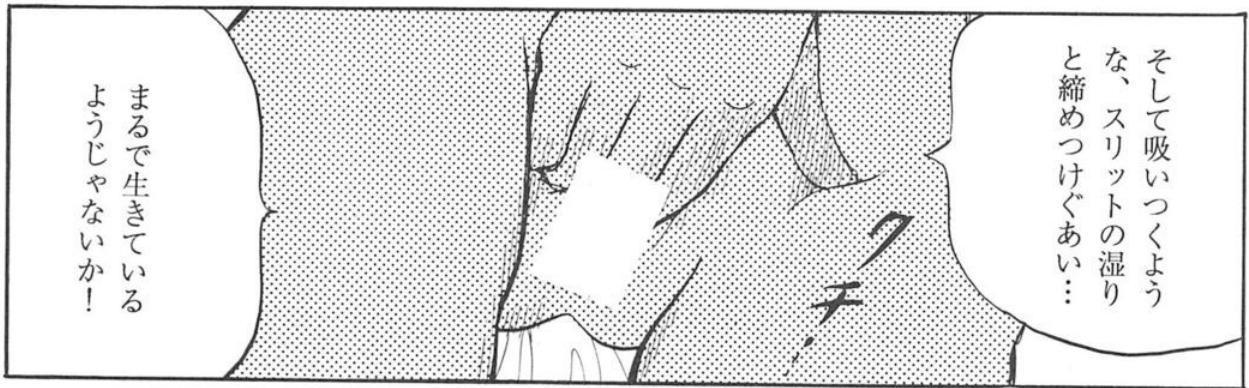
雪のように白く、
血のように赤く、
黒檀のように黒い
こともがあったら
さぞ嬉しいでしょ
うに…

…とつぶやいたのでした。

雪の中に落ちた三滴の真っ
赤な血が、雪の純白、空粹
の漆黒とに、たいそう美し
い対照をなしていました。
それに心をうたれたお妃
さまは…



白雪姫



次号のお知らせ

今度こそ...

白雪姫

(でも前篇)



童話クラブ

'94

夏コミにて発行!!
(もしかしたら4月のCレヴォ...)

「倒錯童話集2」

シャルル・ペロー版

赤ずきん

～後記～

どうも、この度は当、童話クラブの小誌をお買い上げくださり、ありがとうございました。これからも童話に取材した作品を描いてゆきたいと思っておりますので、ふたたびお目にとまることがありましたら、よろしくお願ひします。尚、おくづけの連絡先(ばいさん、ありがとうございます)は、'94/3月まで有効ですので、お間違えのないようお願ひします。

大変申し訳ないのですが、表題作の「白雪姫」がこのような中途半端なものになってしまいました。続刊で2～3回に分けてでも(白雪姫はかなりの長編です)描く予定でありますので、御容赦ください。

おしまい、この本の執筆を半ば強制してくださったTC-EngineのHironon師匠。ビクターのフルカラープリンタ:Trueprint2200で表紙原画を出力してくださった、おなじくTC-EngineのZUN先生。遙か北海道から印刷会社の手配、そして、再三、激励してくださった、nbkz氏。そして印刷におきましては(株)泰明グラフィクス様ならびにHarmion様に本当にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

1993年12月某日 童話クラブ代表

DE TERRAUL (ドテロー)

倒錯童話集・1

1993年12月30日 初版発行

発行：童話クラブ

制作：TC-Engine

印刷所：(株)泰明グラフィクス

連絡先：〒152 目黒区鷹番

'94/3月まで 2-19-8 佐田様方201

塩屋 徹朗 まで

*This Perversed Fairy Tales "Snow White"
is based upon the Grimms'
Kinder-und Hausmärchen.*



童話俱樂部